

● これまでの成果と課題、今後の展望(宇都宮市)

(1) これまでの成果と課題

地域にあるさまざまなまちづくりに係る団体を包括する地域まちづくり組織の設置によって、それぞれの団体がつながりを持ち、円滑に連携を図ることができるようになり、同じような目的や取組を行う団体が部会としてまとめ、例えば青少年育成の関連部会では、子どもたちの健全育成を図るための研修や登下校時の巡回など効率よく取組ができるようになった。

中心部においては、地域まちづくり組織が地域コミュニティセンターの指定管理を行うことによって、市民協働の意識を高め、住民主体のまちづくりを促進すると共に、利用者ニーズに応じた柔軟な施設管理や市民サービスの向上、地域づくりの活性化が図られている。

現在、全ての地域まちづくり組織において住民の自主的な活動や地域課題の発見・解決に取り組んでいるが、組織間の取組内容に濃淡の差があることが課題となっており、地域支援担当職員の重点的な支援が必要となる組織もある。

(2) 今後の展望

地域まちづくり組織の自立的な組織運営が継続・発展するためには、人材の育成や確保が重要である。そのために、地域まちづくり組織が住民の参加しやすい雰囲気作りや人づくりを目的とした講座を実施し、後継者の育成を行ったり、個々に活動している団体や住民、NPOなどが交流できる企画を実施し、参加メンバーを増やす取組をしている。

● これまでの成果と課題、今後の展望(高松市)

(1) これまでの成果と課題

高松市では、地域コミュニティ協議会を設置したことにより、自治会や各種団体などの連携が図られ、地域のまちづくりに自主的、主体的に参画できる基盤が整備された。この基盤が整備されたことより、地域が抱える課題の解決に向けて、住民と行政とが協働で取り組むことが可能となり、住民主体のまちづくり活動を推進することができている。

例えば、「塩江地区コミュニティ協議会」では、平成21年度から地域ゆめづくり提案事業を活用し、地域の高齢者が竹や木、地域の社会資源を使い、竹細工や農産物の販売などに取り組む「コミュニティビジネス・しおのえ事業」を実施している。その活動拠点は、休園中の保育所を古民館として活用している。その活動を通じて、地域の活性化が図られるとともに、高齢者にとっては、生きがいづくりに役立っている。

「古高松地区コミュニティ協議会」では、その地区内にあるJR高徳線屋島駅の乗降者数の減少により、JR四国が同駅から駅員を引き揚げ、無人駅になるという状況を機に、JR四国と共同で駅の再生に取り組んできた。古高松地区コミュニティ協議会は、屋島駅の乗車券の対面販売等の管理業務をJR四国から受託している。また、同協議会では、駅周辺の自治会や鉄道OB有志らで結成された「JR屋島駅盛りあげ隊」の協力を得て、各種イベントを実施し、屋島駅を含めた地域の活性化につながるコミュニティ活動に取り組んでいる。

地域コミュニティ協議会の課題としては、地域ごとのまちづくり活動に差が出ていることや事務局を含めた地域コミュニティ協議会の組織体制の強化、活

動資金・財源の確保が挙げられる。これらの課題を解決するため、高松市地域コミュニティ協議会連合会では、平成21年7月に国のふるさと雇用再生特別交付金を活用し、地域コミュニティ協議会に地域推進員1名（人口規模が大きいところは2名）を配置した。この制度の実施期間は、平成24年3月までとなっている。この制度の導入により、一時的には事務局体制の強化が図られたものの、中長期的な視点では事務局体制をどうするかという課題は残っている。

（2）今後の展望

現在高松市では、市民主体のまちづくりを実現するため、自治と協働のあり方を示すことを目的として、「高松市自治と協働の基本方針（仮称）」の平成22年度末の策定に向けて準備を進めている。

今後、高松市では協働の視点をさらに重視することとしている。地域の発想による新たな取組を支援する環境の整備を行う必要があり、地域ゆめづくり提案事業などを含めた市の支援事業の拡充を図っていくことが検討されている。